外部評価委員長による平成30年度博物館事業点検評価の外部評価総括

平成30年度の「博物館使命の四大要素」への評価は、自己評価・外部評価ともに、「歴史と文化の継承」がB、「歴史と文化の窓口」がB、「人々とともに歩む」がA、「やさしさと安心の確保」がBとなった。

「歴史と文化の継承」について、平成30年度はリニューアル工事のなかにあって、平常時とは異なる資料保存の取り組みが必要となった。この経験を活かしながら、次年度においてさらに効果的な手法を確立する必要がある。資料の受入・保存・補修は、充実した調査研究に基づいて実施されるべきだが、そのための時間の確保や効率的な事業サイクルの確立を期待したい。

「歴史と文化の窓口」については、リニューアル休館のなかにあっても、内外諸館との協働による展覧会の開催など積極的な活動が見られたことを評価したい。常設展示のリニューアルに関しては、その基本計画に基づいて工事が遂行されているが、これを支える存在として、情報コンテンツの整備についても一層の努力を求めたい。

「人々とともに歩む」については、学習支援交流員の活動、教育現場での連携授業、地域社会との連携事業ともに、リニューアル休館中にもかかわらず、年間を通して多彩な活動を展開したことを高く評価できる。その中で課題を指摘された、学習支援交流員や中高生向けの事業についても、新たな展開を期待したい。

「やさしさと安心の確保」について、施設管理を充分に行い、今後想定される自然災害にも耐える安全性を維持するとともに、アメニティ関連の改善を実現して、リニューアルオープン後の入館者に安心と快適さを提供できることを期待する。特に、大きく変わる運営体制については慎重な検討を進め、より多くの入館者に愛される博物館を目指してほしい。

外部評価を行った委員（令和元年度　博物館協議会委員）

小原　耕司　神戸市立小学校教育研究会社会科部副部長（八多小学校長）
樽本　信浩　神戸市立中学校教育研究会社会科部長（唐櫃中学校長）
玉田はる代　神戸市婦人団体協議会会長
井上　優　　特定非営利活動法人こうべユースネット副理事長兼財務担当
奥村比左人　神戸労働者福祉協議会副会長（三菱重工労働組合神戸造船支部執行委員長）
栗林　直美　神戸市ネットモニター
原田　正俊　関西大学文学部教授：日本中世史
戸田　清子　奈良県立大学地域創造学部教授：日本経済史
河上　繁樹　関西学院大学文学部教授：美術史
黒田　千晴　神戸大学国際連携推進機構　国際教育総合センター　准教授：比較国際教育学
藤岡　　穣　大阪大学大学院教授：美術史
玉田　芳英　独立行政法人国立文化財機構　奈良文化財研究所都城発掘調査部長：考古

博物館使命の四大要素

歴史と文化の継承と研究

この活動目標に対する自己評価 B

この活動目標に対する外部評価

		委員A	委員B	委員D	委員E	委員G	委員H	委員I	委員J	委員K	委員L	委員M	委員N		
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B		
この活動目標に含まれる事業群と評価	自己評価														
資料保存	C	C	C	B	B	C	C	C	C	B	B	B	C		
資料補修	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	C	B		
調査研究	C	C	C	B	C	C	C	C	B	B	B	C	C		
資料受入（購入・寄贈・寄託）	A	A	A	A	A	A	A	B	B	B	A	B	A		

歴史と文化の継承と研究

自己評価詳細

補修・資料受入事業については及第点であるが、保存・調査研究については充分に機能していない面が見られたことは残念である。博物館を運営していくなかでの根幹作業である調査研究、その成果に基づきながらの展示、保存・補修、資料の受け入れを進めていくことが望ましい在り方であるが、その体系づけかつサイクルが充分に機能しているとは言い難い。改善案に基づき、次年度以降の課題として取り組んで行くことが望まれる。学芸員個々の努力も必要ではあるが、組織体制として担保すべきことも肝要であろう。

外部評価委員コメント

資料保存

平常であっても資料の保存には細心の注意を払わなくてはならないが、リニューアル工事を実施しつつ、同時に資料保存を図らなくてはならないという本年度の状況は、当館にとって多くの困難を伴うものであったと思われる。

評価資料にあるように、工事による空気環境の悪化による影響なのか、害虫の発生や大幅な温度変化が生じ、資料保存という観点からは、非常に厳しい年度であったと推察される。害虫やカビによる被害がどの程度のものであったのか懸念されるが、清掃に関しては、学芸員全員による収蔵庫の清掃など、日々の努力のあとがうかがえる。こうした努力や資料の保存状況については、来館者にはほとんど知られることがないが、適切な資料保存と環境整備は、博物館の所蔵物を安定した良好な状態で保ち、そのグレードの高さを支える重要な条件である。学芸員の方々の地道な努力の積み重ねがなければ成し得ないだろう。

適切な環境で資料を保存することは、博物館・美術館にとって何よりも大事なことである。リニューアルオープン後は、最新の設備が整った適切な保存環境が保たれるであろうが、資料の劣化をいかに防ぐかという点については、今後も常に課題となろう。当館には、貴重な資料も多く所蔵されている。リニューアルオープンまで、可能な範囲で適切な保存環境を保持していくことが望まれる。

温湿度の管理や害虫トラップは当研究所でもやっていますので、相談にのります。

博物館としては平常でないリニューアル工事実施中という状況が、保存や補修、維持管理に物心共に影響が大きくでていたことと思います。しかし、神戸市立博物館の所蔵品は神戸市民をはじめ多くの方々の大切な宝です。害虫や温湿度変化の検出は非常に大きな問題ですので、リニューアルオープンの際にはモニタリングや清掃体制に関して、先進的な取り組みや機器、薬剤の導入なども含め、効率的で効果的な手法を確立し、保存体制を強固なものにされたいと考えます。また、補修に関しては財政的な困難もあるでしょうが、動物園の個々の動物のスポンサー制度のように、例えば特別に観覧できる期間を設けて寄付を募るなど、ぜひ、必要な措置を必要なタイミングで行っていただきたいと考えます。

リニューアル工事を実施しながらの博物館の大切な資料を保存することは、工事に伴う環境変化に対応した的確な処理が必要となります。30年度の実施内容から「課題と目標」は達成されており、自己評価「C」から「B」が相当と考えます。

調査研究

「六甲」に係る調査（資料調査、文献、先行研究の確認など）について、一定のレベルで調査活動が開始できたことは、評価したい。「六甲」は神戸のシンボル的存在であり、民間においても、六甲についての研究・調査、講演、成果発表などが進んでいる。近代以降における神戸の都市発展や文化の醸成という面において、六甲が果たしてきた役割はきわめて大きい。近年は登山などレクリエーションの場のみならず、「六甲ミーツ・アート」にみられるような現代アートの舞台となり、こうしたアート・イベントも次第に市民に定着しつつある。今後の継続的な調査研究を行い、基礎資料の蓄積、学術調査の結果を展覧会の実現へとつないでいくことが望まれる。「六甲」に関わる歴史資料の分析ならびにリスト化は重要な調査活動であり、その成果を評価したい。現地調査による研究の成果を図るためには、各関係団体との情報交換も必要であろう。たとえば、NPO法人六甲山と市民のネットワーク（六甲大学）、NPO法人神戸外国人居留地研究会など各研究団体との連携・情報交換を密にすることで、調査研究のさらなる充実と発展が期待できる。

六甲山系には、再度公園にある神戸市立外国人墓地や布引の滝など、歴史遺産・自然遺産としての価値を有し、景観の優れたメモリアルな場所が点在する。外国人居留地が西洋文化流入の窓口であるならば、外国人墓地は、居留地の記憶を今に留める鎮魂の場であるといえる。また、六甲山系に位置する布引の滝については、近年、その歴史をたどる市民レベルの研究会・勉強会などが盛んに行われており、海外からの観光客も増加している。

都市のなかにこうした豊かな自然に育まれ、歴史を紡いできた地域遺産を有していることは、神戸の財産であり、都市の魅力を深めることにもつながる。当館を核として、各団体と協力関係を構築しつつ、六甲に係る調査研究を進め、それを展覧会の実現につなげ、地域調査研究の一層の充実と発展が図られることを期待したい。

すでに行われてきたことと思いますが、寺社などの調査を行い、調査結果にもとづいて文化財の寄託を増すようにしてほしい。（ただし、そのためには収蔵庫のスペース確保という問題が発生するので簡単ではないと思いますが）

博物館使命の四大要素

歴史と文化の窓口

この活動目標に対する自己評価 B

この活動目標に対する外部評価

		委員A	委員B	委員D	委員E	委員G	委員H	委員I	委員J	委員K	委員L	委員M	委員N		
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B		
この活動目標に含まれる事業群と評価	自己評価														
展覧会	B	B	B	A	A	B	B	A	B	B	B	B	B		
研究発表	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	C	B		
特別利用	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B		
情報コンテンツの発信	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B		
展示関係のリニューアル	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A		
情報・図書関係のリニューアル	C	C	C	B	C	C	B	C	B	C	B	C	B		

自己評価詳細

休館中にも関わらず、関大博物館や九州国立博物館と協働して館外展示を実施し、当館のコレクションを紹介できたのは今年度の大きな成果の一つであろう。また故宮南部院区の展示準備、オープン後の特別展の準備作業もあわせて行えているのは、望ましい姿であろう。

展示関係のリニューアルについては、『リニューアル基本計画』に基づきながら学芸員の研究成果に基づき進められている点は評価したい。一方で、情報・図書の整理については少し遅延しているようである。情報コンテンツの発信については、工夫を凝らしている点が看取できるので、この点をリニューアル後のHPなどの刷新事業に向けて活かして欲しい。

また、特別利用等の成果によってデジタル・アーカイブの拡充、基金の繰り入れを遂行しているのは、将来を見据えた方向性が示されているものと考えられる。継続する方向で進めるべきである。

外部評価委員コメント

展覧会

展示についてはマスコミやインターネット上の評価も含め、大きな成果を挙げられたと思います。閉館中、工事中であっても博物館の存在が失われていたわけではなく、活動は継続していました。ホームページでは発信されていたかもしれませんが、長年、博物館を誇りに思い心寄せてきた年配者などには空白の期間となりました。あらゆる年代層にむけて、それぞれに効果的な、多様な方法で情報発信をしていただきたかったと思います。

2019年度のことも入っているが、2018年度の評価なので切り分けたほうが良い。

外部の博物館と連携された活動は評価できます。とくに、故宮博物院での展示によって、「神戸」がさらに注目されることを願っています。また、リニューアル記念展を契機に、博物館が注目されるようにイベントなどを考えてください。

リニューアル休館中、関西大学博物館や九州国立博物館において館外展示を行ったことは、高く評価できる。また国外での展示として國立故宮博物院南院での展覧会が実現したことは、東西文化交流の点からも、大きな成果を生んだと考える。しかしながら、CITES関連の規制強化のため、象牙・紫檀・黒檀などが付属する美術品が原則輸出禁止となり、輸出に際して、それらが使われている軸装絵画作品の軸首交換という作業が発生したことについては、疑問を呈したい。自己評価資料にあるとおり、そうした作業はまぎれもなく貴重な作品自体に「手を加える」ことであり、各作品の保全に大きな影響を与えるものではないかと懸念される。当然回避すべきものであるが、他方、展覧会の内容、水準を確保するという観点から、当館が苦渋の選択を迫られた状況がうかがえる。

今年度の「課題と目標」に対しては、上記の通り自己評価「B」から「A」が相当と考えます。特に台湾の故宮南院での館外展示については、東西文化交流展としては前例のない内容で、多くの苦労があったと思いますが、今後の更なる交流が期待されます。

休館中の他館へのまとまったコレクションの展示は評価できる。

リニューアル中で館内での展示ができなかったため、総合評価としては、Ｂであるが、館外での発信については高く評価できる

（今後の展示について）

「神戸市立博物館展」に関しては、リニューアル記念ということもあり、期待したい。工事中の困難な状況、リニューアル関係の業務が多々あるなかで、開幕に向けての準備を行うことについては、多くの困難な状況があったであろうことが推察され、大きく評価できる。

「建築と社会の年代記―竹中工務店400年の歩み」も大変興味をひく企画展である。同館同様、竹中大工道具館も海外からの注目度が高く、日本の「道具」「手仕事」に対する外国人の関心も深いと思われる。

また、英国の「コートールド美術館展　魅惑の印象派」の開催が来春実現することは、大変意義深い。ただ今回、ロンドンの所蔵先美術館を訪問し、作品調査する機会を得なかったことは残念である。学術文化交流の活性化という意味からも、今後は作品展示だけではなく、海外の美術館・博物館への調査訪問、人的交流を、より活発にしていくことが望まれる。

研究発表

学芸員にはそれぞれ専門分野があり、研究へのアプローチの方法や機会も同一ではない。したがって、同じレベルでの研究発表、研究活動を求めることが適切な評価指標になるのかどうか、疑問の残るところである。学芸員一人ひとりが学術・研究の深化・向上をめざすことは重要であり、そのことが博物館の知の蓄積につながることはいうまでもない。各学芸員の執筆や講演数がひとつの指標であり、研究・研鑽を積むことは大切である。近年はとくに、学芸員がその地域独自の文化や歴史を語り、所蔵品コレクションに関する知見を広く社会に伝える機会も増加しており、学芸員が担う社会的役割が一層大きくなっている。他方、本年度のようにリニューアル休館中には、工事にともなうさまざまな業務があり、加えて通常の企画展の準備、他館との連携事業の企画・調整、ワークショップ等の企画運営など、業務も多岐にわたり、当館関係者が多忙をきわめたことが容易に推察される。そうした中で、学芸員が一定の研究業績を積んでいくためには、研究時間の確保を含め、良好な研究環境を整備・保持し、研究の機会を保障することも大切であろう。休館中の取り組みとして、当館の所蔵資料に関して、学芸員による発信活動の機会を得られたことは評価できる。こうした数値化できない活動についても、その質や内容を評価できるような何らかの指標をつくっていくことも、今後は必要ではないだろうか。

研究評価におけるマイナス評価があるが、学芸員の調査/研究時間の確保が必要である。年度ごと、半年ごとの役割分担を明確にするのも一つの方法と考えられる。

博物館使命の四大要素

人々とともに歩む

この活動目標に対する自己評価 A

この活動目標に対する外部評価

		委員A	委員B	委員D	委員E	委員G	委員H	委員I	委員J	委員K	委員L	委員M	委員N		
		A	A	A	A	A	A	A	A	A	S	A	A		
この活動目標に含まれる事業群と評価	自己評価														
学習支援交流員	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B		
学校との連携	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	S	A	A		
一般向け普及事業	S	S	S	A	S	S	S	S	S	S	S	S	A		
地域との連携	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	S	A	A		

人々とともに歩む

自己評価詳細

学校との連携を含めた教育普及活動については、従来から当館の活動の柱としているところでもある。休館中であり、施設が活用できないという制約があるにも関わらず、十二分に展開できた点に大きな評価を与えたい。休館中ゆえに取り組めた事業もなかには含まれていると考えられるので、リニューアル後には、事業を精査して取り組んで行く方向性を見出し、館からの発信事業として次年度以降の展開を図って欲しい。

外部評価委員コメント

博物館だよりの「普及事業のはなし」や「活動の記録（写真）」から、活動の取り組みが確認でき、その成果を窺うことができました。今後も学校との連携を深め、中高生や大学生が関われるワークショップなどの企画/構築を期待しています。

全体的に大変良いと思います。今後も是非継続していってください。

学習支援交流員

学習支援交流員が自主的にワークショップ・プログラムを開発し、当館の企画事業に積極的に参加していることは、博物館の企画事業を円滑に行うためにも大切で、大いに評価できる。知の拠点である当館が旧外国人居留地内にある意味はたいへん大きい。「旧居留地を知る、感じる」など多彩なプログラムを通じて、博物館と人々をつなぐ学習支援交流員の方々の継続的な活躍が、今後も期待される。

学習支援交流員間に、オープンで良好な関係が築かれ継続していることもたいへん評価できる。ボランティアという性質上、やむを得ないことだが、定例会のみの参加者や活動を行わない学習支援交流員がいることは残念である。交流員の方々にとっても、自分自身のやりがいや生きがい、自己実現につながるような魅力ある活動を模索していく必要があろう。また、経験の長い交流員から新規加入の交流員へ、活動内容や取り組み方の伝承ができていくことが理想であるが、スキルの伝達が充分行えない状況があり、今後、いかに質の高い支援活動を継続的に行っていくことができるか、交流員の確保、ノウハウの蓄積と伝達、良好なコミュニケーションの構築など、課題は多い。これまでの成果については、当館関係者、交流員の方々の地道な努力の積み重ねの結果であると高く評価できる。リニューアルにともない、今後は新たな事業も増えるであろう。夏期休暇などを利用して近隣の高校・大学とも連携し、若い世代にもフィールドワークの一環として企画事業に参加してもらい、神戸の地域史を学んでもらいたい。同時に、異世代間交流を通じて、文化・芸術に対する関心・興味を深めてもらいたい。学習支援交流員と当館学芸員、プログラム参加者との交流と有機的な連携を、今後もめざしてほしい。

従来より力を入れてこられた分野ですので、リニューアルを機会に、再度学習支援交流員を増員して頑張って下さい。（河上委員）

リニューアル後に向け、学習支援交流員の意識改革も含めた育成が急務である。

地域との連携

リニューアル休館中、近隣の大学、美術館・博物館との連携を強め、魅力ある企画や学芸員の専門性を生かした講座などを開催できたことは、高く評価できる。しかし、こうした連携を保持していくためには、十分な人員を配置し、連携先とのコミュニケーションを円滑に図っていくことが必要不可欠であろう。地域との連携に関しては、たとえば、NPO法人神戸外国人居留地研究会など、近代神戸に関する研究蓄積が豊富な研究団体もあるので、こうした研究団体との協賛も、今後の検討課題となり得ると思う。

当館が旧居留地に立地していることは意義深い。これまでも、旧居留地連絡協議会会員として、当館が各団体との親睦を深めつつ、神戸の知の拠点としてその存在感を示してきたことは、大いに評価できる。長年、当館も含めて、連絡協議会が旧居留地の美観や街並みの保全に努めてきた意義は大きく、そうした日頃からの努力が、現在の旧外国人居留地の魅力にもつながっている。

神戸の都市発展、文化の醸成は、西洋諸国やアジア各国との人的交流なしにはあり得ない。今後に向けては、たとえば、貿易・教育・文化などの面で活躍した外国人たちが眠る神戸外国人墓地の調査研究や、数年前に近隣美術館と共同開催した「阪神間モダニズム展」のPARTIIの開催なども、多くの市民の関心を惹起できる事業ではないだろうか。

博物館使命の四大要素

やさしさと安心の確保

この活動目標に対する自己評価 B

この活動目標に対する外部評価

		委員A	委員B	委員D	委員E	委員G	委員H	委員I	委員J	委員K	委員L	委員M	委員N		
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B		
この活動目標に含まれる事業群と評価	自己評価														
施設管理	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B		
警備・清掃業務	B	B	B	B	B	B	A	B	A	B	B	B	B		
緊急時対応	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B		
アメニティ関連のリニューアル	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B		
リニューアル工事	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B		
リニューアル後の運営体制	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B		

やさしさと安心の確保

自己評価詳細

令和元年11月のリニューアルオープンに向けて、非常用電源設備の設計、条例・規則の改正など、概ね計画通り準備を進めることができた。今後、オープンに向けて、館内案内業務（インフォメーション業務）やショップ・カフェ事業者の選定を行い、職員・スタッフの訓練などを進めていく。

外部評価委員コメント

施設管理

経常的な予算確保が困難な状況であるとは思うが、当館は神戸を代表する学術・文化施設である。リニューアル後も引き続き、設備の点検費など予算の確保に努めてほしい。

また、当館は旧横浜正金銀行時代の建物であるため、高い天井や回廊、ドリス式の円柱など、当時の面影を残した格調のある外観・内装で、長く市民に親しまれてきた。往年の雰囲気を大事にしながら、リニューアル後は、新しい神戸の顔として親しまれることを期待したい。

自然災害への対応をはじめとした危機管理体制の整備が必要。1-02-01で問題となったカビ対策は今後も監視が必要と考えられる。

各所にユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、多くの人が安心して来館できるよう引き続きご配慮いただきたい。

リニューアル後の運営体制

リニューアル後のカフェ及びミュージアムショップについて、旧トムセン邸と旧横浜正銀時代の雰囲気が伝わる空間の構築をめざし、工程通りに工事が完了したことは評価できる。しかし、リニューアル前の「旧トムセン邸」の部材や家具のうち、活用できないものがあるため、それらの適切な保管が今後の新たな課題となろう。将来、それらを有効に展示・活用する方法や、広く入場者に知ってもらえる機会があれば望ましい。

１階の無料化にともなう運営体制については、初めての試みでもあるので、予想し得なかったようなことも起こり得る。あらゆる場合を想定して臨むことが必要である。無料化は、来館者が自由に出入りでき、人と人、人と展示作品との交流が期待できる反面、１階に関しては、これまでの静謐な空間を保持することは難しく、来館者のマナーが問われることになる。博物館としての品格が損なわれることのないよう、来館者のマナーにも注意を払う必要があろう。問題が生じれば迅速に対処し、必要であれば、来館者に対して適切な利用、マナーについて啓発していくことも大切であると考える。

アメニティ関連のリニューアルなど、リニューアル後の運営体制などは目にして、中身のお話をお聞きしないと判断が難しいと思いますが、改善というよりも、多様な年代、状況の方々が、より楽しめる施設、機能、空間となっていることを期待しています。

リニューアル後も引き続き、やさしさ、安心が確保できるよう予算の獲得に努めてほしい。